

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	通所支援ヘルテール須崎園		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・関係機関とのやり取りが出来ている。	・関係機関との連携を円滑に行うため学校、相談支援事業所、福祉事務所等と日頃から情報共有を行い児童の支援方針や状況を共通理解できるよう努めている。支援内容や変化について必要に応じて電話や会議において連携を意識している。	・連携体制の整理と職員間の情報共有を強化し継続的な連携が行える組織づくりを進めていく。
2	・本格的なトランポリンがある事で児童の気持ち切り替えの一つになっている。新規児童の獲得にも役立っている。	・トランポリンを気持ちの切り替えの情緒の安定を図る支援ツールとして活用している。 ・興奮や不安を抱えやすい児童が落ち着いて次の活動に参加できるよう工夫している。	・見学時や保護者への説明の際にはトランポリンを活用した支援の目的や効果を丁寧に伝え事業所の特色として発信している。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・施設の老朽化	・建物が古く壁、床、扉など劣化が見られる。 ・バリアフリー対応が不十分な箇所があり配慮を要する児童への対応が必要。	・転倒防止マットの設置や角の保護など実施可能な安全対策を継続的に行う。 ・家具の配置や動線の見直しにより限られたスペースでも活動しやすい環境を整える。 ・日常清掃および定期清掃を徹底し清潔感を保つ。
2	・近隣に公園がなく、戸外活動が難しい。	・事業所周辺に公園や広い空地がなく、安全に戸外活動を行える場所が徒歩圏内がない。 ・公園等へ移動する場合、送迎車両や職員配置が必要となり、日常的な実施が難しい。	・戸外活動の代替として室内でも身体お動かせる運動療育などを計画的に取り入れる。 ・室内での運動あそびや感覚あそびに関する研修、情報共有を行い活動の幅を広げる。
3			